

# まんさく



## 質の高い大学教育推進 プログラムに採択される

「生活文化を視点にした介護福祉士養成教育」地域住民と学生による相互支援活動を通して」

申請代表者 吉村 淳子

質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）とは、平成二十年度より開始された新しいGPである。大学設置基準等の改正等への積極的な対応を前提に、各大学・高等専門学校から申請された、教育の質向上につながる教育取組みの中から特に優れたものを選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、わが国全体としての高等教育の質保証、国際競争力の強化に資することを目的としているものである。

本取組みは、地域文化の理解を通して、①幅広い利用者理解・生活理解ができる、②コミュニケーション能力向上、③利用者の喜びを引き出す実践力、④介護福祉実践の喜びを実感させることを目的としている。地域で活動する学生と地域住民との間に発生する「相互作用関係」を介護福祉の価値と認識させ、学生が地域伝統行事やボランティア活動へ参加することにより、それらを実体験として学ばせることで介護福祉士養成教育をするものである。

平成20年度文部科学省教育GPに選定されました

「質の高い大学教育推進プログラム」

地域福祉学科

### 生活文化を視点にした介護福祉士養成教育

—地域住民と学生による相互支援活動を通して—

教育GPとは

他にも新見公立短期大学の6つの取組が文部科学省GPに選定されています

|                 |        |                      |
|-----------------|--------|----------------------|
| 平成19年度 現代GP選定   | 看護学科   | 電子カルテ教育システムによる看護基礎教育 |
| 平成19年度 特色GP選定   | 看護学科   | 質の高い看護実践のための看護研究     |
| 平成18年度 現代GP選定   | 看護学科   | 地域のニーズに応える看護専門職養成    |
| 平成18年度 特色GP選定   | 幼児教育学科 | 実践力が育つ学習開発システム       |
| 平成18年度 教育推進GP選定 | 幼児教育学科 | 大学コンソーシアムによる学習者の養成   |
| 平成18年度 特色GP選定   | 幼児教育学科 | 地域と創る「はじめてのこどもフェスタ」  |

新見公立短期大学 地域福祉学科・看護学科・幼児教育学科・徳島看護学専攻科

〒761-8505 徳島県新見市西方1-2-63の2 TEL:0887-72-0034 FAX:0887-72-1497 <http://www.nshu.ac.jp/>



発行 新見公立短期大学（岡山県新見市西方1-2-63の2） ☎0867-7211-0634

編集 学報編集委員会

## 幼児教育学科

### 特色GP成果報告会 開催される

二〇〇八年十一月二十二日(土)に学術交流センターにて、「特色GP成果報告会」が開催され、幼児教育関係者や学生ら、百五十人が参加しました。この報告会は、二〇〇六年度に文部科学省より選定された、特色GP「実践力が育つ保育者養成システム」による取組みが最終年度を迎えるにあたり実施されたものです。

本学科では従来、保育実習・幼稚園実習やボランティア活動などの現場実践を軸とした体系的指導を通して、保育者を目指す学生に、高い保育実践力を身につけることを目指して教育を行ってきました。その取組みが「特色」として評価され、GPの選定に至りましたが、この3年間は実践力の更なる向上を目指し、現場実践と相關的な関係にある教科教育や体験活動、就職支援とを有機的に連携させた「循環型学習スパイラル」の具体化に取り組んできました。報告会では教員からの報告だけでなく、学生や卒業生による、実習やボランティア、体験活動を通して培われた実践力についての報告があり、これらの報告に対し学識経験者による外部評価が行われました。GPの取組みは本年度で終了しますが、この成果が今後も維持される

よう、全教員が知恵を出し合い、工夫しながら教育の質を高めていききたいと思っています。



### 第四十九回中・四国保育学生 研究大会に参加して

一年次生 丸山セーラ涼子

初めて中・四国保育学生研究大会に参加して、多くのことを学ぶことができました。私はオペレッタや劇が行われる分科会に参加したのですが、他大学の演劇を見るのは初めてで、とても新鮮に感じました。その中でも、「友達ほしいなおおかみくん」のオペレッタをした短大の発表が印象に残っています。登場する動物たちの動き、表現、言葉などとても気持ちの入ったもので、見ていてどんどんストーリーに引き込まれていきました。台詞を言う時も、言わない時も全ての場面において表情が次から次へと変わり、見ているだけでその動物がどのような心情な

かが伝わってきました。

また、オペレッタの題材には、「仲間外れにされる者の辛さ」や、「いじめは絶対にあってはならない」というメッセージが込められており、今の子どもたちにとって重要な問題を取り上げていると感じました。ただ単に話しを決めて演じているのではなく、伝えたいメッセージが込められていることで演技にも気持ちが入り、役に成りきって体全体で表現することができるのだと思います。

保育者は、子どもたちに伝えたいこと、感じてほしいことを持ちながら、子どもたちと関わります。子どもたちに伝えたいメッセージを、どのようにして、どうすれば伝えられるのかということ、常に考えている必要があるということ、この発表を見て感じました。

### 交流ひろば「こたん」好評です!

子育てカレッジ専任保育士

森田 薫

四月にオープンした「にいみ子育てカレッジ交流ひろばにこたん」の延べ利用者数は、十二月現在で三千人を超えました。八ヶ月が過ぎ、保護者の方からは、「にこたんに来ると、落ち着いて子どもを見ることができます」という声を聞くこともあります。

にこたんでは、親子がゆったりと自由に過ごす時間を大切にしていますが、その他にも、リズム遊びやお散歩など、みんなで一緒に楽しむ活

動も行っています。このように、にこたんでの時間をみんなで過ごすことで、友達の輪が広がっているように感じます。

他にも、親子と学生が一緒に行う体験行事があります。その一つの「芋掘り体験」では、子どもたちが「見て! 大きいよ!」と、掘ったお芋を嬉しそうに見せてくれた姿が印象的でした。こうした活動の中で、子どもたちは、伝統文化や自然体験を楽しみながら経験していきます。また、学生もボランティアとしてひろばに参加しています。ここでは、実習や講義では学ぶことのできない「親子のかかわり」や「保護者の子どもに対する思い」など、様々な視点から学びを深めています。これからも、「にこたん」らしい子育て支援ひろばづくりを行っていきたいと思っています。



# 看護学科

## 看護学科ランチオンセミナー 二〇〇八年度の活動

研修・研究委員

内藤一郎  
木下香織

ランチオンセミナーは、教員相互の学術交流を目的とした勉強会で、毎月一度水曜日の昼食時に開催しています。個々の教員の研究内容や新しい情報を紹介しあう場となっています。毎月行うことができたのは、多忙な中を快く担当を引き受けてくださった教員皆様のおかげと感謝しています。今年度の活動は、お互いの情報を共有するうえで有意義でしたが、若い教員からの研究紹介がなかった点、本来の目的である「教員相互の学術交流」のねらいを十分に果たしたとは言え難いと考え、今年度の改善点として検討していくことが必要と考えます。

今年度実施しましたテーマと担当者は次のとおりでした。——四月・学生支援GPについて（古城幸子）、五月・電子カルテ教育システムによる看護基礎教育・その展望と課題（宇野文夫）、六月・精神看護学教育における学びの三位一体論の授業実践（小野晴子）、七月・細胞外マトリックスと疾患（内藤一郎）、八月・基礎看護教育修了時の職業的アイデンティティ形成の研究（上山和子）、九月・卒業研究から見た精神看護学療育における看護研究の動向

（澤田由美）・地域看護に関する学生の看護研究の動向（栗本一美）・老年看護学療育における学生の卒業研究の動向（木下香織）、十月・卒業研究で用いられた実験研究の動向（内藤一郎）、十一月・到達度試験の意義と試験作成の方法（宇野文夫）、十二月・キャリア形成を促進する看護基礎教育への課題・短大卒業生の母校四大化への期待（古城幸子）。

## 電子カルテ教育システムについて

宇野文夫

電子カルテ教育システムとは、医療機関で利用されている「電子カルテシステム」を媒体として、看護基礎教育を実施する教育システムです。見かけは「電子カルテ」ですが、内容は教育用に特化しています。

おもに看護演習（学内実習）の授業に用います。このシステムを用いて、学生にモデル患者を提示し、学生が自分でシステムから患者情報を検索し、看護ケアを入力します。これを教員が評価するものです。

国の二〇〇七年度現代GPに選定され、〇八年度後期から患者情報を学生に提供する部分の運用を開始しました。医療情報、基礎看護学、小児看護学などの授業で先行的に利用しています。看護記録などを記録するシステムについては、〇八年度末までには運用を開始する予定で準備を進めています。

学生の学習到達度にあわせて、個

別的・双方向的に教育を行うことが可能で特に問題解決能力を養う効果があるものと期待されています。



## 卒業生と語る会を実施して

二年次生 久城末沙

平成二十年十二月十二日に卒業生と語る会を行いました。来て下さった先輩方は、看護師二名（松江市民病院と倉敷中央病院）、助産師一名（島根県立中央病院）、保健師一名（福岡市中央区保健福祉センター）、編入された先輩一名（神戸市看護大学）の計五名の先輩方でした。始めに先輩方から職場説明や在学中の勉強方法などを話していただきました。その後、一人の先輩に十数名ずつ集まり、交流会を行いました。交流会では話しやすい雰囲気の中で個人的に聞きたいことを質問させていただけました。同じ道を通った先輩方のお話を近くで聞くことができ貴重な時間を過ごすことができました。こ

の会を通し、看護研究や進路についてなど多くのことを学ぶことができ、これからの参考にしていきたいと思っています。

## ストレス研究会を終えて

しげい病院

（回復期リハビリテーション病棟）

国澤 愛



実習で憧れた病棟に就職し、早四年目になりました。今回、「アロマセラピーによる夜間頻尿への改善効果」自律神経を刺激して」というテーマで看護研究に取り組み、先生方にもアドバイスをいただき、試行錯誤しながらも、発表することができました。そして今回、「ストレス研究会」の講師としての機会をいただき、実際にアロマセラピーを体験してもらうことで、学生ならではの素朴な疑問や新鮮な意見を聞くことができました。また、先生方も沢山集まってくださり、参観日のようなまなざしで見守って下さっていました。久しぶりの新見は雪が積もり寒かったですが、母校の温かさに触れることができました。



絵・吉岡 瞳

地域福祉学科

「土下座祭り」に  
お囃子連で参加して

一年次生 沖津裕子

伝統行事として三百年も続いているこのお祭りは、地域の方がたくさん参加され、地域の中で大切にされている行事です。

前夜の「湯立ての神事」に参加し、翌日の「土下座祭り」に臨みました。今回初めて参加したこともあり、緊張と不安でいっぱいでした。

私は、お祭りではお囃子連として参加させていただきました。お囃子は、前期の授業「音の文化論」の特別講師の朱鷺たら先生が私たちのために作曲してくださった曲を、ダンボールで作った太鼓と竹笛を使い、本番までの限られた時間で一生懸命に練習しました。

土下座祭り当日は、想像以上に多くの方が参加されていて、普段とは違う緊張でいっぱいになりました。お祭りが始まり、お囃子を始めたとき、お囃子連の最後尾にいた私は、後ろにいた子供神輿の掛け声に音が消され、結局、一緒になって「ワッショイ！ワッショイ！」と言っていたことを覚えています。次第に、緊張が解けてきて、太鼓を楽しんでいる私がいきました。お囃子連で列になって歩いていると、叩いているものに興味を持ってくださる方や拍手してくださる町の方もおられました。

お旅所で休憩し、折り返す時には疲れも出てきましたが、演奏をやめることなく、最後まで祭りを楽しむことができました。最初は、緊張でどうなることかと思いましたが、終わる頃には達成感で満たされました。

今回、「土下座祭り」に参加し、普段できない貴重な体験ができました。地域の方との交流から様々なことを学び、私自身にとって、とても良い刺激になったと思います。



高瀬地区の方との交流行事

「もちつき大会」に参加して

一年次生 津田 剛

餅つき大会の開催にあたり、数日前より有志の学生で、餅のトッピングを考えたり、看板作成などを行ってきました。学生が主体となって企

画してきたため、活発な意見交換があり、成功させようという意気込みが伝わってきました。

当日は、高瀬地区の方々を教えていただきながら、一緒に餅をついたり、ぜんざいを煮たりと少し早い正月を感じる事ができました。また、昔の餅つきの思い出や慣わしについて聞くことができました。幼い頃に亡き祖母が作ってくれた豆餅の風味も思い出しました。会場はあいにくの天気でしたが、それを感じさせないほど賑いました。

餅つきという日本の伝統行事を通して、生活の中での文化や心の交流を図れたことは、地域福祉を考えるうえでよい経験になりました。

今後も、地域の方々を知ることができ、地域を元気にする活動に積極的に参加していきたいと思いました。



母校自慢

第9回

＊島根県開星高等学校

色々なことに挑戦できる学校

一年次生 松崎優紀子

私が通っていた開星高校は、勉強だけでなく、生徒にいろいろな経験をさせてくれる学校です。

特に国際交流が盛んで、私も約三週間、カナダにホームステイさせていただきました。ホームステイ中は、老人ホームに行き、日本とカナダの介護福祉の違いについて知ることができました。この経験により、介護福祉に関する視野が広がり、今に繋がっていると思います。

他の特徴として、開星高校はスポーツも盛んで、バレーボール部、テニス部をはじめ、多くの部が全国大会に出場し、活躍しています。私自身はテニス部に所属していて、キャプテンも経験しました。部活動では、先生の熱心な指導をいただきました。また、仲間の大切さを学ぶことができました。

私の高校生活で、いろいろな貴重な経験をさせてくださった開星高校は、私の自慢の母校です！



絵・竹平晴香

地域看護学専攻科

公衆衛生看護研究発表会を終えて

木下美貴子

平成二十年十二月十八日に集大成となる公衆衛生看護研究発表会を行いました。入学直後から各自興味のあるテーマについて看護研究に取り組んできました。研究を進めるにあたり、前期は文献検索や調査機関との連絡調整、後期には統計処理や論文作成に日々追われていました。論文を作成していく中で、さまざまな疑問が生じることがありました。そのような中、無事に乗り越えることができたのは、ご指導くださった先生方や、共に支えあうことができたクラスメートのサポートがあったからだと思います。支えてくださったすべての方々に心から感謝したいと思っています。そして、この一年間を通して、『具体的に考える力』を身につけることができたと思っています。これからも、探究する心を忘れないでいこうと思います。

専攻科一年を振り返って

江口理香

振り返る間もない忙しい一年間でしたが、今こうして振り返ってみると一つひとつがとても学びが多く、充実した一年間でした。毎日びっしりの講義だけでなく、疫学調査、家庭訪問、看護研究、保健所実習等演習や実習から様々なことを学びまし

た。また、十六名の色々な経歴を持つクラスメートとのグループワークを通して、皆で一つのものを作り上げることの難しさと素晴らしさを知り、自分自身も大きく成長することができたと感じています。辛かったこともありましたが、この専攻科で保健師になるための勉強ができて本当によかったと心から思います。そして、先生やクラスの皆に支えられながらできたと思います。

中路 幸

入学当初は無事一年を過ごせるのかとても不安でしたが、先生方やクラスメートに助けられ、学校生活も後数ヶ月となりました。この一年間で保健師に必要な知識を得ただけでなく、すばらしい先生や友人に出会うことができました。このことは自分にとって一生の財産です。そして、地域住民から多くのことを教えていただき、地域住民の暮らしに関わることのできる保健師の素晴らしさに気づくことができました。入学当初は養護教諭を目指していましたが、地域住民と一緒に地域づくりに関りたいと思うようになり、今後は保健師として働きたいと思っています。



同窓生のコーナー

同窓会支部会設立状況について

同窓会・世話人 田邊 洋

現在、約三千名余りの本学の卒業生が全国で活躍中である。そこで、卒業生と本学とのつながりをさらに強め、お互いの情報を交換して本学の今後の発展を図るために、本学の同窓会支部会を全国の拠点地区につくることを始めた。最初に「関東支部会」を二〇〇六年十一月十八日に開催し、一支部会が設立された。

二〇〇七年度は岡山県内で、七月二十五日に「新見支部会」、九月二十二日に「岡山市支部会」、十二月一日に「倉敷支部会」、一月二十六日に「津山支部会」の四支部会を設



津山支部会



倉敷支部会

立した。これで、全国の同窓生の約二十九%をカバーした。  
二〇〇八年度は近県で、六月十四日に「兵庫（姫路）支部会」、七月十九日に「福山支部会」、八月九日に「広島市支部会」、十月十八日に「松江支部会」、十月十九日に「出雲市支部会」、十一月二十九日に「愛媛（今治）支部会」の六支部会が設立され、全国の同窓生の約六十四%をカバーした。  
今後は鳥取（米子）、山口、京阪神、南関東に四支部会の設立の予定で、全国の同窓生の約八十三%のカバーを目標とし、二順目も考えている。

# 平成二十年度 卒業研究テーマ一覧

## 【看護研究】看護学科

●心理的サポートと看護者の役割に関するもの  
 ●術前から術後までの患者の心理的变化とその看護／成人看護学実習を通して  
 ●松本 圭司

●脛腓骨近位骨折手術後の患者が訴えた不安に対する精神的援助／成人看護学実習Aで受け持った患者のプロセスレコードを通して  
 ●松村 百恵

●患者の気持ちを受容することの重要性／基礎看護学実習II・成人看護学実習Aでのプロセスレコードを用いて  
 ●浜砂 希望

●患者への病状説明の場での看護師の役割／外来看護師へのインタビューを通して  
 ●栗林 朋美

●男性看護師の役割と存在価値／男性看護師へのインタビューを通して  
 ●藤本 真也

●成育支援に関するもの  
 ●父親の育児参加の現状／0・3歳児の子を持つ父親へのアンケート調査より  
 ●藤原 勇人

●双子を育てる母親の育児状況／初産婦と経産婦にインタビューを行って  
 ●新田ちかる

●保育園における看護師の役割  
 ●子どもの病気時に対する保護者の対応の実態／地方都市の乳幼児をもつ保護者への質問紙調査  
 ●東江 咲枝

●慢性疾患患児の長期入院におけるサポート体制／小児専門病院と特別支援学校の連携及び看護師の役割  
 ●松本 舞唯

●看護師の役割とやりがい  
 ●退院支援における看護師の役割／基礎看護学実習IIの受け持ち患者へのインタビューを通して  
 ●高橋 佑和

●救急外来看護師のやりがい／2次救急病院外来看護師へのインタビューを通して  
 ●恒見 陽香

●訪問看護師と他職種との連携  
 ●患者と家族の言動から一考察／基礎看護学実  
 ●福岡亜沙美

●習をつしてプロセスレコードによる自己の振り返り  
 ●小村 真帆

●臨床看護学実習を終えた看護学生の葛藤と達成感および満足感について  
 ●川戸 友美

●小児看護に関するもの  
 ●乳幼児の日常的なスキンケア方法の実態  
 ●西岡 希枝

●虐待の現状と看護職の支援／文献研究を通して  
 ●村上 祐子

●育児や医療に関する意識  
 ●看護学生の育児に対する関心度／育児イメージと育児支援  
 ●秋山 絵梨

●赤ちゃんポストに関する看護学生の意識調査  
 ●吉田由由美

●女子高校生の乳がんについての意識調査／よよい乳がんの啓発運動を目指して  
 ●岩永 愛子

●移植に関するもの  
 ●臍帯血移植の現状／骨髄バンクとの比較を通して  
 ●木村 友紀

●骨髄バンクについて伝えたいこと／骨髄移植に関する意識調査  
 ●吉原 真央

●国際看護に関するもの  
 ●求められる国際協力／カンボジアスタディツアーに参加して  
 ●高橋 里絵

●カンボジアの妊娠・出産の現状と課題／現地でのインタビューを通して  
 ●長崎 瑞恵

●カンボジアのA村、Bセンターの歯磨き習慣の調査／カンボジアスタディツアーでの面接調査の分析  
 ●長島かおり

●A県の特別養護老人ホームにおけるターミナルケアの実態調査  
 ●深野 美紅

●看護学生の学年別による認知症高齢者に対する認識、周辺症状に対する感情と対処方法の違い  
 ●宮下 佳子

●認知症高齢者荷ドールセラピーがもたらす効果について  
 ●立石 夏実

●在宅酸素療法を行う高齢者の精神的問題  
 ●田中 美穂

●認知症高齢者の周辺症状に対する音楽療法の即時的な効果／参加調査2事例を通して  
 ●植田 杏菜

●認知症高齢者の周辺症状の成り立ちの分析とケアの関連／NDモデルを活用して  
 ●逸見 亜希

●脳血管疾患後遺症による高齢者の障害克服過程と看護への課題  
 ●細淵 真衣

●超高齢者の語りからみる生きがいと幸福感／2人の男女高齢者の事例から  
 ●三宅 慎子

●多様なケアとその効果  
 ●手掌・肘部をマッサージして得られる肩こりへの効果  
 ●須貝 美穂

●バランスボールを用いたトレーニングによる身体的効果  
 ●大石嘉奈子

●イルカセラピーの看護への導入に対する意識調査  
 ●谷口 恵理

●医療に用いられる温泉とその利用について  
 ●倉橋 陽子

●母性看護に関するもの  
 ●産科医療に関する地域格差の現状と看護師の役割／A市在住の母親にインタビューをして  
 ●大西 由花

●親となる若年妊婦への支援  
 ●人工妊娠中絶の自己決定における看護師の心の葛藤／インタビュー調査  
 ●石井 優子

●出生前診断と選択的人工妊娠中絶についての意識調査／医療系学科生と他学科生との比較  
 ●清水 麻衣

●高齢者のQOLに関するもの  
 ●介護予防活動に参加している在宅高齢者のQOLの影響因子について  
 ●宮下 怜子

●農村地域に居住する高齢者の生活実態とQOL調査  
 ●日常生活において介助を要する高齢者の主観的幸福感に関する研究／対象者の生を支えるための看護介入  
 ●森澤 真帆

●性と排便援助に対する意識調査  
 ●木下 恵理

●高齢者と若年者の一次救命処置に対する意識調査  
 ●宗本 直美

●健康と生活に関するもの  
 ●大学生における生活習慣と肌状態との関連  
 ●上山 七穂

●カルシウム摂取の実態と骨密度との関連性  
 ●藤井 悠加

●美白と日やけに関する意識調査  
 ●西 香寿美

●基礎看護技術に関するもの  
 ●感染防止に対するグローブ着用の意識調査  
 ●猪原絵里奈

●エンゼルケアとしてのエンゼルメイク／文献研究を行って  
 ●千葉 絵里

●看護学生の「排泄の援助」に対する思いの変化  
 ●佐伯 美香

●口腔ケアが脳梗塞患者に及ぼす影響／基礎看護学実習IIを通して  
 ●山下 理那

●学生の生活と環境について  
 ●看護学生のコンタクトレンズケアの現状と課題  
 ●竹内 佑

●生活環境の変化への支援のあり方に関する研究／A公立短期大学に入学した新入生の体験からの検討  
 ●橋本 咲江

●突然死と見取り体験による死の受け止めの比較／家族の立場の違いを通して  
 ●摺木 千恵

●終末期癌患者の希望と死の受け止め  
 ●鷹本三帆里

成人看護：逸見英枝・小野晴子

金山弘代・山縣由子

掛屋純子

老年看護：古城幸子・木下香織

小児看護：上山和子

母性看護：貞岡美伸・岡宏美

精神看護：澤田由美

地域看護：金山時恵・栗本一美

### 【総合研究】幼児教育学科

●社会福祉 指導教員 野原ひでの

●孫と祖父母の関わりによる孫への影響について、短大生への質問紙調査より、石川 美穂

●発達障害のある子どもたちの対人関係の援助について、出口 愛

●学童保育の現状と課題、子ども達が放課後を安全に過ごすためには、戸田 沙織

●被虐待乳幼児への保育支援、保育所における支援を中心に、浜比嘉亜希子

●TEACCHプログラムを取り入れた保育の実践と課題、きりん組とおむすびまん組の実践から、山本 璃沙

●教育学 指導教員 新藤 慶

●少年犯罪と幼少期における親子関係、永添 美玲

●企業における就労と育児の両立支援、先進事例の現状と課題、藤原 春香

●合計特殊出生率の推移と規定要因に関する国際比較、前田 詩織

●地域の子育ち支援計画の現状と課題、八幡加奈恵

●気になる子どもに対する支援と子どもの変化、山崎 舞

●乳幼児保育 指導教員 三好年江

●ベビーマッサージに関する研究、保育所の現状に目を向けて、泉 友貴

●病棟で働く保育士の役割、竹谷 由梨

●乳幼児突然死症候群についての一考察、子どもを亡くした親へのサポートに注目して、竹本 並江

●保育者養成校による子育て支援に関する一考察、学生が活動に参加することによりもたらされる効果、福田 麻美

者のかかわり、協同的学びに着目して、湯藤 有希

●音楽 指導教員 安達雅彦

●保育現場におけるリトミックの実践、青木由梨香・江藤綾華・瀬戸彩路

●子どもたちが参加するミュージカルの制作、保育現場での実践を通して、尾古麻衣子・妹尾 由佳

●保育現場における子どもの歌唱について、ピアノの弾き歌いを通して学んだこと、藤本 真奈

●環境 指導教員 斎藤健司

●ダニアレルゲンを指標とした効果的な掃除方法の検討、岡本 歩惟

●茶道活動が子どもにも与えるもの、保育所での実践より、永易 祐佳

●床の素材別にみた有効な掃除方法の調査、保育現場を想定して、春木ひとみ・桃井香奈

●移植に関するもの、除菌効果の高い手洗いの検討、保育学生の意識調査から、森本 望

●造形表現 指導教員 岡本直行

●種類別にみた水彩絵具の特性と活用法について、エリックカールの作品と制作技法から、池田貴映・太田敦子

●乳幼児用玩具の研究、素材や安全基準からみた玩具の安全性、近藤絵里香

●美術館のワークショップに関する研究、大原美術館の取り組みと子どもにも与える影響、杉中みどり

●子どもの目線に配慮した保育環境の研究、視野の調査結果と壁面構成の高さについて、立道 伊代

●発達心理学 指導教員 芝崎美和

●子どもを叱る場面における父母の連携と性役割観、石井 宗親

●幼児の他者感情理解は色の選択に反映されるのか、岩切 夏美

●連想は物語理解に役立つのか、木村 彩乃

●養育性と出生順位との関連、木村 早希

●養育者との愛着関係が向社会的行動に及ぼす影響、十時 愛香

●身体表現 指導教員 片山啓子

●舞踊作品の制作、創作ダンス「夢のなかの影」、十時 愛香

サーカス、

小川 奈苗・奥野 詩織・緒坂しおり

檜脇 沙季・加田 淳巳・川野 里香

城 めぐみ・日笠 恵・藤江あゆみ

山本 彩香・江口 浩史

●幼児体育 指導教員 渡部昌史

●6歳児における遊具別の負傷発生割合、石本 絵里

●保育者養成校における自然体験活動の実態、越智 温子・小野川ゆかり

●過去の運動経験、環境が現在の体力、運動能力に及ぼす影響、川瀬かすみ

### 【地域福祉研究】地域福祉学科

●指導教員 井関智美

●高齢者サークル活動の効果について、大野 玲子

●施設介護者の介護における精神的負担の検討、働きやすい職場環境の展望を求めて、津田 剛

●利用者の意向に沿った介護の検討、真鍋 季子

●障害者の結婚について、右田 香織

●若年者の介護職に対する意識調査、山根実可子

●指導教員 伊藤博康

●福祉車両の種類と動向、今後の課題、石倉 慎也

●A町の独居・夫婦高齢者世帯の意識調査、アンケートから見える今後のA町、板持 恵理

●精神障害者が暮らしやすい町をつくるために、A市の高校生と精神障害者に対してのアンケート集計をしてわかったこと、酒木 恵

●調理動作における自助具使用について、一般的な自助具使用とニーズ把握後作成した自助具使用の比較調査、築谷祐梨香

●不眠を伴う高齢者の睡眠健康とケアについて、アンケート調査から、中井 善美

●より良いデイサービスセンターにするには、島根県A市のデイサービスセンター利用者に対するアンケート、登尾はるな

●指導教員 原田信之

●施設における認知症高齢者への対応、徘徊・帰宅願望へのケアの現状とこれから、

●介護施設におけるおやつとの現状、青山 友香

●介護施設内での高齢者の楽しみ、江口 円

●施設における絵画・写真利用の実際、坂部 優美

●ドッグセラピーの利点と今後の課題、高尾 真実

●ふれあいいきいきサロンの現状と効果について、濱先 史衣

●指導教員 山内 圭

●スウェーデン発祥のグループホーム、日本で広がる方について、山中ゆかり

●最新は自宅で迎えたい、在宅ターミナルケアをきっかけに死生観を深める、神田 暢子

●ホームヘルパー犬の認知度について、小山 幸実

●色が高齢者に与える影響についての一考察、則定 陽子

●中学校公民教科書における高齢者福祉の学習内容について、森本沙也加

●外国人介護福祉士の受け入れについて、山口 真実

●指導教員 吉村淳子

●高齢者施設での療法的音楽活動がもたらす効果について、横山 舞

●高齢者の衣服に関する意識調査について、池田 和輝

●ホスピス病棟の音楽療法についてある看護師長への聞き取り調査から、岡田 奈々

●音楽によるリラクゼーションの効果、唾液アミラーゼ測定による評価、佐藤 梨衣

●高瀬地域の高齢者の地域生活の現状について、高橋 朱里

●視覚障害者の感覚世界について、A氏への聞き取り調査より、林 久美子

●指導教員 松本百合美

●家族介護者に対する認知症家族会の効果、A県家族会における実態調査から、三浦 大輝

●自閉症・高機能自閉症(アスペルガー症候群)の意識調査から地域支援を考える、荒本 真実

●てんかんに対する理解度と意識の実態調査、世代間での比較を中心に、岡林 愛美

●認知症介護における介護者のストレス、実施から、小西 理紗

●認知症介護における介護者のストレス、実施から、田崎 晃子

●糖尿病のある利用者に対する介護者の意識調査  
露無 麻美

●ユニットケアにおける空間の意義  
馬渡 康子

●指導教員 大竹晴佳

●発達障害児と教育「障害児」に「健常児」の中間地点に立つS君のケースを通して  
木浦 由香

●社会資本から見る中山間地域で生活と人々  
島根県那賀郡旭町(現・浜田市旭町)の事例から  
木野下映絵

●就労を通じたエンパワーメントとM作業所の事例から  
古曳 有香

●セカンドライフを明るく過ごす原動力を探る  
比高 哲平

●障害に対する偏見の解消と障害児との交流を通して  
松本 真依

●ターミナル期を迎える方への支援と家族・介護者の役割  
保光 知佳

●指導教員 三上ゆみ

●視覚障害者の外出支援について  
赤井 寿行

●健康と食生活に対する高齢者の意識と実態  
A町の高齢者世帯におけるアンケート調査から  
小椋 梨花

●徘徊のある認知症高齢者に家族が与える影響  
小坂 美紀

●学生と高齢者のコミュニケーションに関する意識調査  
曾田 唯

●高齢者における食形態の検討と「きざみ食」とソフト食の満足度より  
橋本 沙帆

### 【公衆衛生看護研究】 地域看護学専攻科

#### 指導教員

福岡 悦子

●特定健康診査・特定保健指導に関するアンケート結果からみる効果的な広報活動・情報伝達技術の検討  
阿部 恵太

●高校生の生活習慣の実態と知識・意識との関連  
普通科生徒と看護学科生徒の生活習慣の比較  
内田 敬子

●A企業労働者における主観的健康感と生活習慣の関連性  
永尾 理恵

●子どもの生活習慣に関する保護者の意識と食生活・食育についての意識調査  
二條 久美

●地方の中小企業における健康増進法施行前後の喫煙状況の変化  
藤田 彩見

●病院職員の喫煙に対する意識調査と敷地内全面禁煙施行後の意識の変化  
松岡 真由

●指導教員 金山 時恵

●成人期にある人々の健康観と保健行動とC企業におけるアンケート調査の結果から  
江口 理香

●地域で在宅生活を送るための支援  
堂上 洋未

●母親の育児不安を軽減するための育児支援  
中路 幸

●精神障害に対する高校生のイメージの実態から見る地域支援と精神障害をもつ人の地域生活への影響と課題  
西村 悠

●中学生の生活習慣と健康意識・態度の関連  
本田 綾香

●指導教員 矢庭さゆり

●A市小・中学生の食習慣と元気度との関連  
今田 恵

●A島に暮らす高齢者の生活不安と情緒的サポート  
垣村 寛子

●高校生が捉える高齢者のイメージと世代間交流の関連  
木下美貴子

●A市ふれあいいきいきサロン参加者の経済環境が高齢者の生活に与える影響  
小見山幸乃

●沖縄県の高齢者の主観的健康感と主観的健康感・健康行動について  
與古田 望

### 訃報 野林正紀事務局長

本学の総務・財政担当理事の野林正紀事務局長が平成二十一年二月一日にお亡くなりになりました。享年六十歳でした。野林局長は新見市市民生活部長や総務企画部長などを歴任された後、平成二十年四月一日より公立大学法人新見公立短期大学の総務・財政担当理事および事務局長として赴任され、公立大学法人として新たに歩みはじめた本学の運営に献身されました。  
謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 平成20年度 進路状況

(2月16日現在)

| 学科               | 内訳 | 卒業者数<br>(人) | 専門職<br>(人) | 一般職<br>(人) | 進学<br>(人) |
|------------------|----|-------------|------------|------------|-----------|
| 看護<br>[27期生]     |    | 64          | 40         | 0          | 24        |
| 幼児教育<br>[28期生]   |    | 51          | 39<br>(10) | 2          | 0         |
| 地域福祉<br>[12期生]   |    | 46          | 40         | 0          | 6         |
| 地域看護専攻科<br>[5期生] |    | 16          | 16         | 0          | 0         |

( ) 内は、希望しているが決定していない人数



絵・舩屋恵利

### 受賞のお知らせ

本学の難波正義学長が二〇〇九年二月一日、米国培養細胞生物学会の(IVB)からThe Society for In Vitro Biology 2009 Lifetime Achievement Awardを授与されることになりました。授賞式は米国培養細胞生物学会大会(二〇〇九年六月七日、米国チャールストン)で行われる予定です。記して慶祝の意を表したいと存じます。



今年度、本学地域福祉学科の「生活文化を視点にした介護福祉士養成教育」が文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」に選定されました。幼児教育学科では「いみこどもフェスタ」や「いみ子育てカレッジ」など市民との交流も引き続き行なわれ、看護学科でも「サテライト・デイ」などが好評を得ています。今後も皆様に愛される学校になつてゆければと思います。(田邊)

### 編集委員

委員長

原田 信之  
田邊 洋之  
金邊 時恵  
野山 ひで  
松原 美輝  
村永 二郎